

新型コロナ、第4波を封じ込めるために

4月7日、共産党市議団は市に対して「新型コロナウイルス感染拡大に関する要望書」を提出、伴市長が受け取りました。第4波の危険が現実のものとなる中で、なんとしても感染拡大を食い止めるための新たな施策が必要な時に来ています。

村上かずしげ議員団長が、今回の緊急申し入れについて、「全国で感染が広がり、昨日、北海道も63人新規感染者が生まれた。変異株も増えている。第4波を抑え込むためには、休業補償、検査の拡大、医療機関の損失補填が必要。国に対して市としてしっかりと要望すること、介護施設などから寄せられた声も含め、市としても独自に取り組むべきことを整理して、今回の申し入れとなった」と説明、(市議団の要望の

大要は左下の囲みに掲載)、各議員からも訴えもあり、それを受けて伴副市長が市の考えを説明しました。

今回の申し入れのやりとりの一部を紹介します。

病院や入所者も検査を

問 高齢者施設の職員のPCR検査を実施したことは評価できるが、病院の職員や入所者、入院患者も検査すべきではないか。

答 入所者も含めて全員の検査ができるにこしたことはないが、検査の能力もあるので、まずはウイルスを外から持ち込む可能性のある職員の検査を行うことにした。

問 変異株の検査を広げてほしい。

答 変異株については全国的には検体の40%の抽出検査にとどまっているが、北海道は検体の80%について変異株の検査を実施できている。

ワクチン接種はどうなる？

問 高齢者のワクチン接種について、いつ受けられるか、まずは知らせてほしい。



要望書を伴副市長に手渡す村上議員団長と共産党議員団(左側の4人)

答 ワクチン接種は平日は診療所など40か所で、土日は基幹病院6か所で受けられる。ワクチン供給の見通しが立っていないので、まだ周知することはできないが、供給体制がはつきりしたら、接種場所を発表する。本人がコールセンターに電話して、希望の医療機関と日時を伝え、それで調整したうえで予約受付となる。当初考えていた「集団接種」は医師確保などの課題があり実施しない予定。



問 ワクチンの副反応について情報提

供すべき。

答 基幹病院、医師会などと協議をしていて、その中で先行実施した中での副反応の情報も交換している。アナフィラキシー対策の医師向けのビデオもつくった。

学生の支援強化を

問 学生への食料支援などの取り組みを支援すべき。

答 連合や「くらしごと」などが食料支援をしていることは知っている。市としては困っている学生を臨時職員として、のべ28人採用した。

要望項目

◆市から国に要望してください◆

- (1) モニタリング検査について、目標を1日10万件以上に増やし、機器の整備と体制の確保を図ること。また、「感染拡大の予兆」「感染源」を探知した集団・地域に対して十分な補償を行うこと。
- (2) 全額国庫負担で高齢者施設等の入所者にPCR検査を定期的実施すること。
- (3) 変異株の検査の大幅な拡大と戦略をもって対応すること。

◆市として実施してください◆

- (1) 当面、高齢者施設で入所者を対象に定期的なPCR検査を実施すること。また、高齢者が医療機関から在宅や施設に移るときや、施設従事者が発熱などの健康不安が生じた場合も速やかに検査を実施すること。

- (2) 高齢者施設等における面会について、すべての施設がリモートで実施できるよう支援策を設けること。また、家族への定期的なPCR検査を実施するなど、直接、面会ができる方を検討すること。リモート面会中は入所者に立ち会う必要があり、その間、人手が取られるので人件費も補助すること。
- (3) ワクチン接種への不安を解消するために医師・看護師・保健師等との相談の場を設定すること。また、高齢者にいつ、どこで受けられるのかの案内を早急に出すこと。
- (4) 若者・学生向けの食料・生活物資支援を実施すること。また、様々な団体の取り組みをサポートすること。
- (5) 感染者を誹謗中傷しない「釧路市としてのメッセージ」を定期的に発信すること。
- (6) ヘルパーの労働条件を改善のため、給料が上がるよう市が補助すること。

村上かずしげ通信

21年04月18日・発行 共産党市議団